

## VII. 編集後記

京都大学に入学してからあっという間に4年が経ち、それぞれが人生の次のステップへと踏み出そうとしています。4年間の大学生活で得た経験、知識は非常に大きく、何事にも変えられないものだと思います。そのなかで、岩本ゼミで得たものも大きかったのではないのでしょうか。それぞれが何かしらの興味を持って岩本ゼミを選んだと思います。自分の興味ある分野を探究することの楽しさを味わうことができたのではないのでしょうか。また、ゼミでは同期、先輩、後輩とのつながりがあり、インゼミでは仲間と共同作業をして1つのものを作り上げるという、普段の授業では経験できないことを通して得たものは、今後社会に出ても役に立つものであると確信しています。

大学生活4年間で社会は大きく変化しました。政治では小泉首相が郵政解散を断行し、その後立て続けに首相が変わるという前代未聞の出来事がありました。経済に関しては、なんとといってもサブプライムローン問題に端を発する世界経済危機が起きました。当初日本の金融機関ダメージは少なく、日本にとって対岸の火事だと思っていたが、日本企業、日本経済に大きな影響を与える結果となりました。そして僕たちが今まで生活してきたなかで、これほどまでに国際経済が注目されたことはなかったのではないのでしょうか。(少なくとも僕にとっては)この出来事は国際経済を学ぶ意義を教えてくれたような気がします。岩本ゼミで学んだ知識のおかげで、ニュースや新聞の内容をより理解することができました。

僕たち学生にとってより身近なことでは、僕たちが就職活動で見たことある大きな会社が破綻したり、買収されたりするという驚きもあり、僕たちのときは売り手市場といわれていた就職活動が一転、今年度は多くの企業が採用人数を減らす傾向で、僕たちの後輩の就職活動が大変になるという変化もありました。

これから社会に出ても(院に進んでも)規模・大きさはどうであれ、様々な変化に直面し、苦しむことは数多くあると思います。そんなときでも岩本ゼミで得た、知識、経験、人とのつながりを思い出して、困難を乗り越えていきたいと思っています。

最後になりましたが、熱心な指導と豊富な人生経験をもとにしたお話で3年間のゼミを有意義で貴重なものにしてくださった先生に、14期生を代表して感謝申し上げます。様々なアドバイスをくださった先輩の方々、ゼミ活動に協力してくれた後輩のみなさん、ありがとうございました。近い将来成長した14期生の姿を見せたいと思います。

これからも岩本ゼミがますます発展することを願っています

14期生 嶋田悠一